

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による周辺整備基本計画等策定事業において、構成市として、地域住民との合意に基づいた計画を策定する。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に予定している都市公園の区域決定に必要な組合規約の変更を行う。
②①に基づく取り組み結果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において、地元住民、構成市との合意により、「廃棄物処理施設周辺整備基本計画」及び実施計画が策定された。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善等に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	進捗が遅れていた、廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において、平成27年度に新たに、地元住民、構成市との合意により、「廃棄物処理施設周辺整備基本計画」及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し、環境向上を図ることが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」の建設費償還金、維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽管理等に負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 余熱利用還元移設利用者数	324,207	335,814	344,124	人	業務取得
	ii 資源化率	20.9	20.5	20.3	%	業務取得
	iii 最終処分率	8.4	8.3	8.2	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	161,645	134,103	金額(千円)	内容	132,398	
国支出金(千円)			1,824	緩衝緑地購入費償還金		
県支出金(千円)			132,279	周辺整備費		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	161,645	134,103			132,398	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	策定された廃棄物処理施設周辺整備計画については、構成市及び県との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生ごみ処理容器等購入補助事業の普及促進を図るため、チラシを作成し自治会を通じて全戸配布を行う。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	買い物袋引き替え用のエコバックのデザインをリニューアルし、レジ袋の削減など市民のエコ意識の向上を図る。
②①に基づく取組み結果	生ごみ処理容器等購入補助事業に関する広報記事を掲載するとともに、チラシの全戸配布を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量をめざし、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いとともに、普及推進を図るため広報・PR活動を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業については、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	市内小学校9校のPTAと有価物資源組合による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費の一部について補助金を交付した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	有価物回収量	1,236	1,172	1,097	t	業務取得
	ii	買い物袋の持参運動交換件数	10,698	11,527	13,640	件	業務取得
	iii	生ごみ処理容器補助件数	35	24	33	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	14,138	13,512	金額(千円)	内容		16,485	
	国支出金(千円)		12,412	有価物回収運動奨励金			
	県支出金(千円)		213	生ごみ処理容器助成金			
	市債その他(千円)		887	買い物袋持参奨励運動負担金			
	一般財源(千円)	14,138	13,512			16,485	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、広報・市ホームページ等を活用して今後もPR活動等を継続する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円) 0				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	しらすぎの建設にあたり、旧沼南町と締結した協定書に基づき、鎌ヶ谷市域の用地を取得するための準備を進める。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	クリーンセンターしらすぎの延命化対策を環境衛生組合とともに検討する。
②①に基づく取組み結果	用地の取得について平成28年度に環境衛生組合の事業として進めていくこととなった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減少を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するために建設された施設の建設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	ごみ処理費用及び処理施設建設費償還金に係る負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i 再資源化量		6,676	6,525	6,422	t	業務取得
	ii 最終処分量		2,691	2,638	2,609	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算	
事業費(千円)	1,178,504	1,108,452	金額(千円)		内容	1,182,727	
	国支出金(千円)		519,832		ごみ処理費負担金		
	県支出金(千円)		586,622		共同化処理費負担金		
	市債その他(千円)		1,998		ごみ処理施設償還金		
	一般財源(千円)	1,178,504	1,108,452			1,182,727	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、安全な安定した稼働を確保する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	クリーンセンターしらさぎダイオキシン類対策事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎの通常運転に支障がないようにダイオキシン類対策工事を完成させる。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	クリーンセンターしらさぎの運転を行いながら、ダイオキシン類対策工事を完成させることができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組	意図(対象をどうするのか)	焼却により発生するダイオキシン類を抑制する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合負担金におけるダイオキシン類対策事業の負担金を支払う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	焼却により発生するダイオキシン類を、地元との協定で定めた自主規制値 0.1ng-TEQ/m ³ N以下に抑制することが求められているが、今後も自主規制値を下回る安定した運転が可能となった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠	
	i	ダイオキシン類排出濃度	0.1以下	0.1以下	0.1以下	ng-TEQ/m ³ N	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	76,889	55,162	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			55,162	負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	76,889	55,162			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	平成27年度までにクリーンセンターしらさぎの2炉に触媒反応塔を設置するなどダイオキシン類対策工事が完了した。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	負担金	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	負担金	55,162	55,162	当初	55,162	H26からの繰越
				H26⇒27繰越		
③達成状況	完了			補正		現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当		55,162
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみステーション管理等システム導入事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成27年度のみのものであるため、前回の評価なし。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内全域に設置されているごみステーション、有価物ステーション及びごみゼロ運動ステーション	意図(対象をどうするのか)	毎年増加するごみステーションの管理について、情報を一元管理することにより、転入者の排出場所等の問合せや苦情に対して効率的な対応が図れるようにする。
②事務事業の概要	ごみステーションに係る情報や市民からの問合せ事項等を一元的に管理する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	既存のごみステーション管理システムは、市のみが使用するもので、ステーション管理に関して問題が発生した場合、収集運搬事業者若しくは環境衛生組合との情報伝達手段としては、電話やファクシミリなどに頼る他ない状況であるが、同システムが運用できるようになると、市民からの問い合わせや苦情への対応が効率化につながり、市民・事業者・行政の協働によるごみ減量化への取り組みに大きく貢献する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	ごみステーション管理等システムの契約を締結し、平成27年5月から運用を開始した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i	ごみ発生量(総排出量)	32,019	31,835	31,704	t 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	0	5,609	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)			3,757	ごみステーション管理システム導入委託		
県支出金(千円)			1,852	システム使用料		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	0	5,609			0	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市及び収集運搬業者若しくは環境衛生組合との間で、システムの特性を生かした、より一層の情報の共有を進める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	システムを構築し、運用を開始した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	同システム管理等システムの導入	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	同システム管理等システム導入の契約及び運用開始	5,779	5,779	当初	5,779	5,609	H26からの繰越
				H26⇒27繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成28年度への繰越額(単位:千円) 0					